

## VI.教育課程

### (1)授業科目および授業単位数

区分	授業科目	単位数(時間数)					
		講義		実習		計	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	論理学	1	30			1	30
	統計学	1	15			1	15
	情報科学	1	30			1	30
	心理学	1	30			1	30
	教育学	1	30			1	30
	生活科学	1	30			1	30
	行動科学	1	30			1	30
	人間関係論	1	30			1	30
	家族論	1	30			1	30
	文学	1	30			1	30
	外国語	2	45			2	45
	保健体育	1	30			1	30
	小計					13	360
専門基礎分野	解剖・生理学	4	120			4	120
	生化学	1	30			1	30
	栄養学	1	30			1	30
	薬理学	1	30			1	30
	微生物と感染	1	30			1	30
	病態学	6	180			6	180
	治療論	1	30			1	30
	保健医療論	2	30			2	30
	社会福祉	2	30			2	30
	関係法規	2	30			2	30
	小計					21	540
専門分野I	基礎看護学概論	2	45			2	45
	基礎看護技術	8	240			8	240
	基礎看護学実習			3	135	3	135
	小計					13	420
専門分野II	成人看護学概論	1	30			1	30
	成人援助論	5	150			5	150
	老年看護学概論	1	30			1	30
	老年援助論	3	75			3	75
	小児看護学概論	1	30			1	30
	小児援助論	3	75			3	75
	母性看護学概論	1	30			1	30
	母性援助論	3	75			3	75
	精神看護概論	1	30			1	30
	精神援助論	3	75			3	75
	成人看護学実習			6	270	6	270
	老年看護学実習			4	180	4	180
	小児看護学実習			2	90	2	90
	母性看護学実習			2	90	2	90
精神看護学実習			2	90	2	90	
小計					38	1320	
統合分野	在宅看護概論	1	15			1	15
	在宅援助論	3	75			3	75
	看護管理	1	15			1	15
	看護研究	1	30			1	30
	災害・国際看護	1	15			1	15
	臨床看護の実践	1	30			1	30
	在宅看護論実習			2	90	2	90
	統合実習			2	90	2	90
	小計					12	360
合計					97	3000	

分野（ 専門基礎分野 ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
関係法規Ⅱ	3年次 前期	1単位 (15時間)	外山 美砂子
科目目的・目標	看護関係法令について学んだことを踏まえ、関連分野への知見を深める。 そして法律が保障する労働者の権利義務について理解する。		
授業概要	この授業では、保健衛生に関する重要な法律について知識を広め、保険・福祉の分野についても、近時の法の動きに注意しながら学ぶことを目標とする。 そして労働者として与えられている権利等を知る。こうした種々の関連法規を理解することを目標とする。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	「薬務法」(～2回) 医薬品医療機器等法、麻薬及び向精神薬取締法、その他(「環境衛生法」を含む)	講義
	2回		講義
	3回	「社会保険法」:健康保険法、介護保険法、その他	講義
	4回	「福祉法」(～5回) 社会福祉法、生活保護法、児童分野、高齢分野、障害分野、その他	講義
	5回		講義
	6回	「労働法と社会基盤整備」(～7回) 労働基準法、労働安全衛生法、育児介護休業法、その他 (「環境法」を含む)	講義
	7回		講義
	8回	終講試験	
使用テキスト	17巻 看護をめぐる法と制度 デジタルナーシンググラフィカ		
参考書	関連する新聞記事等		
評価方法	終講試験 100点満点		
その他	看護職の職務遂行のための看護関係法令を学び、看護行為・医療行為の法的意義を理解する。		

分野（ 統合分野 ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
看護管理	3年次 後期	1単位 (15時間)	鯉渕由美 岡崎友香
実務経験のある教員等による授業科目	埼玉メディカルセンター看護副部長・認定看護管理者。 認定看護管理者としての経験を活かし、多職種及び看護職のマネジメントについて多方面から授業や演習を行う。		
科目目的・目標	目的：医療システムにおける看護師の役割とその実践の方法について学ぶ。		
授業概要	目標：より良い看護サービスを提供するための看護管理の基礎を学び、望ましい管理の在り方を考える。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護管理とは、専門職の役割と機能	講義
	2回	マネージメントとは	講義
	3回	看護を取り巻く諸制度、医療制度について	講義
	4回	看護記録について、安全管理について	講義
	5回	医療事故、インシデント・アクシデントレポート	講義
	6回	組織目標達成のマネージメント	講義
	7回	ストレスマネージメント	講義
	8回	終講試験	
使用テキスト	看護管理 ナーシンググラフィカ		
参考書			
評価方法	終講試験 100点満点		
その他			

分野（ 統合分野 ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
看護研究	3年次前期	1単位 (30時間)	栗城 尚之
科目目的・目標	看護研究への関心と理解を深め、研究への取り組みと成果の活用に必要な基本的知識の習得と研究的態度を養う。具体的には、看護研究の目的と意義、研究課題、研究倫理、研究デザインと研究方法、文献レビュー、論文の構成と書き方などについて学ぶ。また、論理的かつ一貫性を担保したケースレポートを作成する。		
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の目的と意義が説明できる</li> <li>2. 研究課題の明確化の重要性が説明できる</li> <li>3. 研究倫理の重要性について説明できる</li> <li>4. 研究計画書の作成方法を理解できる</li> <li>5. 実習における看護実践を振り返り、ケーススタディをまとめる。</li> <li>6. ケーススタディを発表し、お互いの学びの成果を共有する。</li> </ol>		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護研究とは	講義
	2回	研究デザイン, 研究倫理	講義
	3回	文献検索と文献クリティーク	講義
	4回	ケーススタディの実際① (文献検索)	講義・演習
	5回	ケーススタディとは・研究計画書作成	講義
	6回	ケーススタディの実際②	演習
	7回	ケーススタディの実際③	演習
	8回	ケーススタディの実際④	演習
	9回	ケーススタディの実際⑤	演習
	10回	ケーススタディの実際⑥	演習
	11回	研究成果の発表準備 (効果的なプレゼンテーション)	講義
	12回	ケーススタディの実際⑦	演習
	13回	ケーススタディの実際⑧	演習
	14回	ケーススタディ発表・講評	演習
15回	ケーススタディ発表・講評・まとめ	演習・講義	
使用テキスト	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方.照林社		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. JNN スペシャル 94 看護研究の進め方 論文の書き方 第2版.医学書院</li> <li>2. 看護学生のためのケース・スタディ 第4版.メヂカルフレンド社</li> <li>3. 系統看護学講座 別巻 看護研究.医学書院</li> </ol>		
評価方法	論文・提出物・参加態度・課題		
その他			

分野（ 統合分野 ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
災害・国際看護	3年次 後期	1単位 15時間	吉田 一哉
科目目的・目標	<p>目的：災害看護の役割を理解し、災害救護活動に必要な基礎的知識を身につける                      世界の人々の健康問題の状況や多文化社会で看護を実践する上で、必要な知識を学ぶ。                      目標：1. 災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる。                      2. グローバルヘルスの現状と課題、看護の国際協力の実際や日本における多文化共生と看護の役割について考える</p>		
授業概要	<p>災害という特殊な状況を理解し、看護師として被災者救護活動に必要な知識と援助方法について基礎的事項を学ぶ。授業を通じ、日常生活においても防災意識の高揚や災害ボランティアへの関心を高める。                      また、国際看護活動の意義を理解し、諸外国の医療・看護を、その国の政治経済や文化、価値観を踏まえて考察する必要性を学ぶ。国・地域の歴史・社会システムの変遷と関連から、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養う。</p>		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	災害医療と災害看護の基礎知識	講義
	2回	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義
	3回	災害時の応急手当て	講義
	4回	災害時の心のケア	講義
	5回	国際看護の基礎知識	講義
	6回	多文化看護：事例を通して	講義
	7回	世界の医療：国際医療協力の現場から	講義
	8回	終講試験	
	使用テキスト	災害看護 ナーシンググラフィカ	
参考書	1) 柳澤理子：国際看護学 看護の統合と実践 ピラールプレス		
評価方法	出席状況・授業態度・レポート提出・終講試験		
その他	特になし		

分野（ 統合分野 ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
臨床看護の実践	3年次 前期	1単位 (30時間)	津坂美保
科目目的 目標	<p>目的：臨床に近い状況下の援助を通して、総合的な判断や対応する力を習得する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要症状のある患者に安全な援助を行うための判断力を高めることができる。</li> <li>2. 看護技術を組み合わせて、複数の患者の状態や状況にあった援助ができる。</li> <li>3. 診療に伴う援助における危険要素を知り、事故防止のための知識・技術が理解できる。</li> </ol>		
授業概要	<p>チーム医療、他職種との協働、メンバーシップ・リーダーシップ及び、医療安全の基礎的知識を活用しながら看護をマネジメントし、看護実践を統合する。卒業後の看護業務遂行能力をイメージする。</p>		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護チーム演習（事例提示、援助計画立案）	GW
	2回	看護チーム演習（援助計画立案）	GW
	3回	看護チーム演習（援助計画のグループ発表）	GW
	4回	看護チーム演習（援助計画についての振り返り）	GW
	5回	看護チーム演習（追加事例あり）	GW
	6回	看護チーム演習（援助計画に沿った演習）	GW・演習
	7回	看護チーム演習（援助計画に沿った演習）	GW・演習
	8回	看護実践演習	GW・演習
	9回	看護実践演習	GW・演習
	10回	看護実践演習 振り返り	GW
	11回	看護実践演習	GW・演習
	12回	看護実践演習	GW・演習
	13回	看護実践演習 振り返り	GW
	14回	臨床看護師に必要な力とは	GW
15回	臨床看護師に必要な力とは 発表	GW	
使用テキスト	各科目教科書、看護技術教科書		
参考書	各領域、看護技術の教科書		
評価方法	<p>7回目終了後 演習評価・グループワーク評価</p> <p>15回目終了後 演習評価・グループワーク評価</p>		
その他	<p>演習ではユニフォームとナースシューズを忘れないこと。</p> <p>事例患者での演習では、事前に十分な学習を行うこと。</p>		

